



RS SILVER FLAT

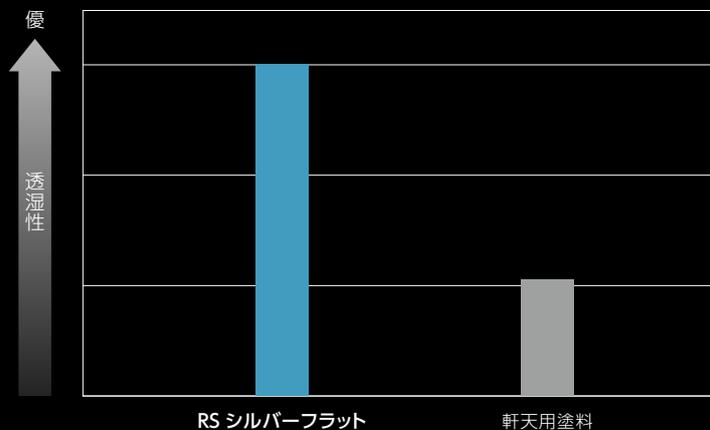
RS シルバーフラット

RS SILVER FLAT



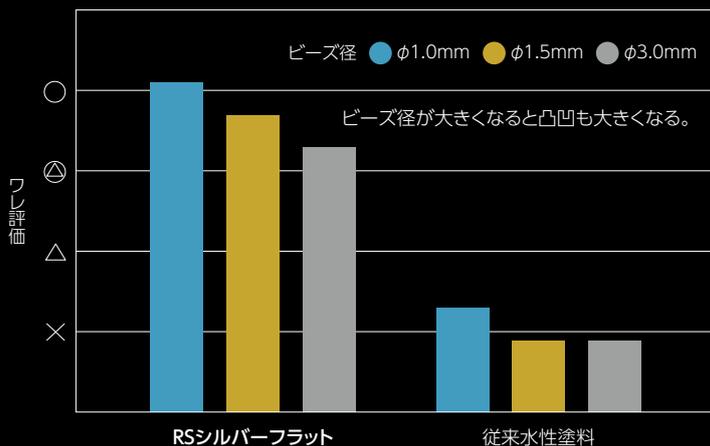
透湿性

従来の軒天用塗料に比べ、透湿性に優れています。



耐ワレ性

従来の水性塗料に比べ、耐ワレ性に優れています。



RS SILVERフラット



従来水性塗料

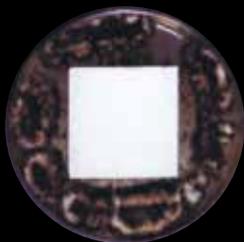
水性反応硬化樹脂の優れた付着力により力強く下地・旧塗膜を掴みます。
透湿性が求められる軒天井やブロック塀などを優雅な艶消し仕上げで蘇らせます。



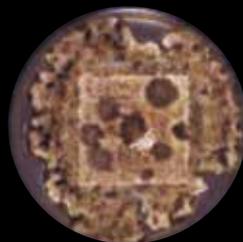
防カビ・防藻性

カビや藻が建物に影響する美観の問題や早期劣化の予防に効果を発揮します。

防カビ性



RS シルバーフラット



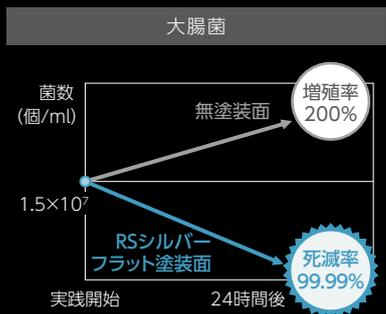
従来水性塗料
防カビ・防藻剤を配合しない塗料

<試験方法>
カビ類または藻類を培養させた寒天の上に塗膜を置き、一定期間後の状況を観察します。
中央の四角(塗膜)にカビまたは藻の繁殖が認められなければ、防カビ・防藻機能を有していると言えます。

抗菌性

抗菌性に優れています。

菌滴下法試験結果



<試験方法>
・菌液0.5mlを試験面に滴下 ・24時間経過後の菌液中の個数を測定 ・菌液の採取は洗い流し法による

下塗塗料 各種下塗塗料をラインナップしています。

RSプライマー 水性 2液

水性で臭気も少なく、幅広い旧塗膜・基材へオールマイティーに対応します。

【主な適用素材】 コンクリート・モルタル・窯業系サイディングボード

RSマルチシーラー 溶剤 2液

紫外線をブロックしあらゆる素材へ優れた付着性を発揮。光触媒サイディングなどに最適な下塗材です。

【主な適用素材】 コンクリート・モルタル・窯業系サイディングボード

【主な素材適正】 珪素塗装面・光触媒塗装面・無機塗装面

■塗料性状

荷姿	16kg	加熱残分	55% (白)
混合比	—	劇物表示 (品名・含有量)	—
色	白および淡彩色	労安法上の表示有害物	—
艶	艶消し	有機則/特化則	—
仕上り感	平滑	消防法による危険物区分	非危険物
塗料比重	1.35 (白)	硬化剤の成分による区分	—
溶剤比重	1.00 (上水)		

※上記の数値は標準を示すもので、若干の変動があります。

■塗装条件

塗装方法	平滑面	リシン面
	刷毛・ローラー	刷毛・ローラー
希釈率	0~10%	0~10%
標準所要量 (kg/m ² /回)	0.13	0.15~0.25
希釈剤	上水	上水

※標準所要量は、個々の条件によって異なります。

※標準所要量は、塗装作業に必要な使用量の数値です。

■施工上の注意事項

●塗装後、乾燥不十分な状態で降雨・結露などで負荷が掛った場合や、低温、高湿度、通風の無い環境では、膨れ、はく離、割れ、白化、シミなどが発生するおそれがありますので、塗装を避けてください。●絶えず結露が発生するような用途、場所での使用は避けてください。溶剤系塗料での塗装をおすすめ致します。●可塑剤が多く含まれる部材 (塩ビ鋼板、ゴムパッキン、ラミネート、合成皮革、プラスチック、シーリング材など) への塗装は避けてください。粘着や軟化が生じるおそれがあります。また、これら部材に直接塗膜が接触しないよう注意してください。●蓄熱されやすい素材 (軽質モルタル、ALC、高断熱型窯業系サイディング、発泡ウレタン使用建材など) を用いた「高断熱型外壁」で、旧塗膜が弾性リシンや弾性スタック、アクリルトップ等の場合、そのまま塗装すると環境条件によっては水や温度の影響で塗膜が膨れたり、剥離が生じることがありますので、旧塗膜は完全に除去してください。●濃彩色仕上げの際、雑巾ウエス等で強くこすると、色落ちや艶変化が起こる場合がありますので、衣類などが触れる可能性のある部位への施工は避けてください。●弾性塗料等の柔らかい塗膜の上への艶消し塗料の塗装は、割れが生じるおそれがあるため避けてください。●気温5℃以下 (低温)、湿度85%以上 (高湿) での施工は避けてください。●屋外において降雨、降雪、強風の恐れがある場合は塗装を避けてください。●塗装間隔は環境 (温度、湿度、換気回数等) や膜厚によって変わります。●塗膜の乾燥硬化過程で、結露や降雨等の水分の影響を受けた場合、塗膜の異状 (白化、艶引け、フクレ等) につながる場合があります。水分の影響を受けるおそれがある場合は、塗装を避けてください。●所要量は、被塗物の形状や素材、塗装方法、環境などにより増減することがあります。●結露が発生する場所では、塗料中の微量の水溶性成分が表面に溶出し粘着物となって析出することがあります。粘着物は水拭きや水洗で除去してください。●塗膜に降雨や結露の影響を受けた場合は、白化や艶引けなどの異状が生じやすくなります。山間部や河川近くなどの夜露の早くおきる多湿地域では、より条件が厳しくなりますのでご注意ください。●塗装仕様書に記載の数値は標準のもので、被塗物の形状、素地の状態、気象条件、施工条件により多少の幅を生じることがあります。●塗膜性能を十分に発揮させるために、所定の塗り回数と塗付量確保による施工を行ってください。●旧塗膜リシンが活膜 (付着強度0.5N/mm²以上) の場合はシーラーレス塗装仕様が可能です。●活膜でない場合は劣化塗膜を除去後に必ずシーラーを塗装してください。●旧塗膜に光沢が残っており劣化していない場合には付着不良や塗り重ねが原因で発生する場合があります。旧塗膜表面の目荒しを行ない、試し塗りによって確認のうえ塗装を実施してください。●吸い込みの著しい下地では、RSマルチシーラーを推奨します。●吸い込みの大きい下地や素材の場合は、塗付量が多く乾燥が速くなりますので塗装間隔を長めにとってください。また、上塗までの塗装間隔が規定よりも短い場合、縮み、割れ、乾燥不良がおそれがありますので注意してください。●被塗物の形状、膜厚や色目、塗回数、希釈率の差などにより、実際の艶と若干異なって見える場合があります。また塗継ぎ箇所を艶ムラを生じやすい傾向があります。●艶消し塗料は、完全に硬化した後に行ってください。また、RSプライマー]シーラ]を下塗りとすることで、可塑剤移行による汚染、粘着の低減が図れますが、シーリング材の種類、使用条件などにより剥離、伸縮割れが起こることがあります。●シーリング材は、塗膜が汚染はく離・収縮割れを起こすことがあるため、マスキングテープなどで養生を行い、塗装を避けてください。シーリング材を打ち替える場合は、後打ちとし、可塑剤 (油分) を含まないノンブリードシーリング材をご使用ください。●仕上げる際は、塗り継ぎ部をつくらぬよう注意し、面を切って、通し塗りを行ってください。●膜厚、温度、塗色、塗り回数、塗装方法、希釈率などにより艶の発現性が変化します。特に刷毛・ローラー塗装時の塗継ぎ部では膜厚となり、その部位の艶が高くなり、艶ムラを生じやすい傾向があります。試験施工

■ご使用上の注意事項

下記の注意事項を守ってください。詳細な内容については安全データシート(SDS)をご参照ください。【予防策】●取り扱い作業中・乾燥中ともに換気の良い場所で使用し、粉じん・ヒューム・ガス・ミスト・蒸気・スプレーを吸入しないこと。必要な保護具 (帽子・保護めがね・マスク・手袋等) を着用し、身体に付着しないようすること。●吸入に関する危険有害性情報の表示がある場合、有機ガス用防毒マスク、又は、換気マスクを着用すること。又、取り扱い作業場所には局所排気装置を設けること。●皮膚接触に関する危険有害性情報の表示がある場合、頭巾・スリッパ・長袖の作業着・前掛けを着用すること。●本来の目的以外に使用しないこと。●指定材料以外のものは混合 (多液品の混合・希釈等) しないこと。●缶の取っ手を持って振ったり、取っ手をロープやフックで吊り下げたりしないこと。●取り扱い後は、洗顔、手洗い、うがい、及び、鼻孔洗浄を十分行うこと。●使用済みの容器は、火気、溶接、加熱を避けること。●本品の付いた布類や本品の栓が等すは水に濡して処分すること。【対応】●目に入った場合は直ちに、多量の水で洗った直ちに医師の診察を受けること。●皮膚に付着した場合は直ちに拭き取り、石けん水で洗い落とし、痛みや外傷等がある場

で仕上りを確認の上、本施工を行ってください。●高温などの乾燥が早い環境下では艶ムラが生じやすくなります。特に被塗面に直射日光で熱せられ高温になると塗膜の形成肌の凹凸が増え、さらに塗膜厚が不均一になりやすくなるため艶ムラが生じやすくなります。●使用中において塗料に含まれる艶消し剤が沈降しやすい場合がありますので、適宜攪拌しながらご使用ください。●補修塗り用として使用塗料の控えを必ずとっておき、同一ロット、同一塗装方法で補修塗装をしてください。●補修塗りの際は、塗装方法や凹凸肌の違い等により、仕上がり性に若干の差を生じる場合がありますので、部分的に試し塗りした上で希釈量等を決定してください。●ローラー塗装では同一方向に揃えるように仕上げてください。ローラー目により、色相や仕上がり感が異なって見えることがあります。●刷毛塗り仕上げとローラー仕上げが混在する場合、仕上り肌や色相に多少差が生じます。●平滑に近い旧塗膜上での塗装、もしくは平滑性の高い仕上り性が必要な場合においては、希釈 (上限2%) し施工ください。●水性塗料を塗装する場合の刷毛はナイロン刷毛を使用してください。獣毛刷毛は固まったりダマになりやすいので使用しないでください。●被塗面の洗浄に薬剤を用いた場合、水洗を入念に行ってください。被塗面に薬剤が残存したまま塗装すると、塗替え後の塗膜に影れ、割れ、白化等の異常をきたす場合があります。水洗後にpH試験紙を用いて被塗面が中性になっていることを必ず確認してください。●塗り替え塗装の前に、必ず高圧水洗やブラシを用いて、被塗面の付着物や劣化塗膜を十分に除去してください。下地調整が不十分な場合には塗膜剥離の原因となったり、光沢不足や色ムラが発生するなど異常を生じるおそれがあります。●下地の劣化が著しく旧塗膜の密着不良が見られる場合は、脆弱塗膜を全て除去してください。●改修時の既存塗膜の剥離箇所は、予め既存塗膜の塗装仕様でパターン合わせを行ってください。●改修時、漏水がみられる場合は、予め要因となつていない箇所への防水処理を行ってください。●水洗直後は下地表面の含水率が高くなりますので、十分に乾燥 (含水率10%以下) ケット科学社製CH-2型で測定した) させた後に塗装してください。●コンクリートの目隠し、ジャンク、コールドジョイント等は、楕円入りセメントモルタルで平滑にし、表面のごみ、埃、エフロッセツ、レイタスなどの汚れを除去後、塗装を実施してください。●被塗物にカビや藻が繁殖している場合は、下地処理としてカビ、藻の除去および殺菌処理後、十分水洗し、乾燥してから塗装してください。●塗装前の部位にワックスやクリーナーなどが残存している場合には、ハジキや付着不良の原因となりますので、十分に除去してから塗装してください。●タイル洗浄薬剤が塗装面に付着した場合、塗装面の変色や早期劣化を生じることがありますので塗膜面の養生を行ってください。●防カビ防藻性は繁殖の抑制の効果を示すものです。施工部位の構造や形状、環境条件などにより、これらの効果が十分に発揮されない場合があります。●当社指定以外の材料を混合してご使用しないでください。仕上り性、付着性、耐久性など性能に支障をきたすおそれがあります。●塗料の希釈率は試験塗装などにより決定し、それ以降は同じ希釈率で塗装してください。●規定範囲を超えて希釈すると、ハジキ・光沢低下・色味変化・ダレ・隠蔽力不足など仕上りに異常をきたすおそれがありますので、所定の希釈率を遵守してください。また当該現場で一度定めた希釈率はなるべく同一にしてください。●使用前に塗料を均一にかき混ぜてください。特に濃色系塗料は保管期間が長いと容器内で顔料の分離が生じていることがありますので十分攪拌の上でご使用ください。●刷毛やローラーを共用で使用するとハジキ等が発生する場合がありますので、製品ごとに専用とするか、十分に洗浄後よく乾燥させたうえでご使用ください。●塗装用具などは、塗料が乾燥しないので固まらないように洗浄してください。水で落ちにくい場合、水性テフロンセーフティ洗浄剤やラッカーシンナーを用いて洗浄してください。(砂骨ローラーはシンナーで洗浄すると膨潤しますので、ご注意ください) ●開栓後の塗料はできるだけ早く使い切ってください。また使用した塗料を元の塗料容器に戻さないでください。●現場での材料は、容器が密接されていることを確認し、直射日光や凍結を避けた屋内の冷暗所で保管してください。●塗料が付着した布ウエス、紙、ローラーは引火、発火を防止するため水に浸漬するなどして安全対策を行ってください。●塗装時および塗料の取り扱い時は、換気を十分に行い、火気厳禁にしてください。●製品の安全に関する詳細な内容については、安全データシート(SDS)をご参照ください。

合は、医師の診察を受けること。●吸入した場合: 空気の清浄な場所で安静にし、必要に応じて医師の診察を受けること。●飲み込んだ場合: 直ちに医師に連絡すること。無理に吐かせないこと。●漏出時や飛散した場合は、砂・布類 (ウエス) 等で吸い取り、拭き取ること。●火災時には、炭酸ガス、泡、又は、粉末消火器を用いること。【保管】●指定容器を使用し、完全にふたをして湿気のない場所に保管すること。直射日光、雨ざらしを避け、貯蔵条件に基づき保管すること。子供の手の届かない場所に保管すること。又、関連法規に基づき適正に管理すること。【廃棄】●本品の付いた布類や本品の栓、及び、使用済み容器を廃棄するときは、関連法規を厳守の上、産業廃棄物として処分すること。(排水路、河川、下水、及び、土壌等の環境を汚染する場所へ廃棄しないこと。【施工後の安全】●本品は揮発性の化学物質を含んでいますので、塗装直後の引渡の場合は、施工主に対して安全性に十分に注意を払うように指導してください。●例えば、不特定多数の方が利用される施設など場合は、立看板などで本製品塗り立てである旨を表示し、化学物質過敏症ならびアレルギー体質の方が接することのないようご注意ください。

リフォームサミット店
Supported by KANSAI PAINT



リフォームサミット
紹介動画はこちら

関西ペイント販売株式会社 関西ペイントホームページ
www.kansai.co.jp

※本カタログの内容については、予告なく変更することがありますのであらかじめご了承ください。

(23年12月01日PKO) カタログNo.802